

制作ノート「柏原宿今昔物語」

Directors' Note of "Kashiwarashuku past and present Story"

デザイン科教授（映像社会学）

小林はくどう KOBAYASHI Hakudo

■ はじめに

本文の制作ノートは「柏原宿今昔物語」についての経緯と私の考え方、シナリオ、映像から構成されている。「柏原宿今昔物語」は2001年4月滋賀県坂田郡山東町教育委員会からの依頼で制作し完成したDVD作品で、現在柏原宿歴史資料館内で常設放映されている。柏原宿は江戸時代から中山道の宿場として発展してきた。この地区を訪れると中山道の町並みが今でも現存しており、江戸時代の宿場の光景を今日に伝える重要な資産だといえる。江戸時代には伊吹山の薬草園で採れたヨモギをもとに、お灸のもぐさを生産し、全国に商売し繁盛した商家も現在1軒あり、活気があった当時の宿場が容易に想像できる。DVDはこの貴重な宿場を紹介し、町を訪れた人に宿場を理解できる教材内容となっている。また町に住む住民にとって宿場の街道の保存やコミュニティの活性化に役立つよう検討した。2002年9月、10月にはNIME(文部科学省メディア教育開発センター)のNIME Worldでも5回ほどこの作品が放送公開されたことを付け加えておきたい。NIME Worldは、通信衛星を使って放送され、世界195ヶ国で受信可能の国際教育映像配信事業で、この映像ソフトが日本の歴史文化を紹介する教養プログラムとして取り上げられたと判断する。

■ 1 山東町と蜋

山東町は滋賀県の東北部坂田郡に位置していて、北の伊吹山系と南の鈴鹿山系にはさまれた農山村だ。町域は、北部姉川を介して坂田郡伊吹町、東浅井郡浅井町に、東は、伊吹、鈴鹿の両山系を介して、岐阜県関ヶ原町に、南は、霊仙山(1,084m)の麓、坂田郡米原町に、西は横山を隔て坂田郡近江町及び長浜市に接しており、東西8.7km、南北に12.2kmで総面積は、53.11km²、人口は3,850世帯、13,700人である。新幹線で滋賀県東部、米原から岐阜県関ヶ原町へ通り抜ける山間部で、伊吹山が最も近く見える辺りが山東町といったら分かり易いだろうか。この町はのどかな田園風景が広がっていて、いつもはひっそりとしている。この町が名高いことがある。ひとつは今回映像制作をした柏原宿であり、ふたつは蜋の里として知られていることだ。初夏の季節だけでなく、いつもこの町は蜋で溢れている。町中の標識などに蜋マークが使われているだけでなく、お菓子や

食べ物にも蜋最中、蜋うどんがあることだ。2001年には町民期待の複合施設町立ルッチプラザがオープンした。このホールで上映したオープニング映像も実は私が制作した。ところでルッチプラザというのはイタリア語で蜋の光という意味で、驚いたことに建物そのものが、巨大な蜋の形をしている。また町議会では蜋条例を制定して蜋の保護に努めている。蜋が生息するには恵まれた自然環境と綺麗な水と餌となるカワニナが必要だという。1970年代の高度成長の時代、日本の自然が開発され、汚染し、堤防がコンクリート化されると共に蜋は急速に姿を消した。山東町も例外ではなかった。町ぐるみで蜋をこよなく愛する努力があったからなのだという。町の東西を流れる天野川流域にはかなりの数のカワニナがいて、大量の蜋が現在も羽化する。毎年6月初めには、全国から観光客で町は溢れんばかりになる。私も撮影に出掛け、乱舞する群を見ることができた。しかし現在まで蜋が生息しているのは町民の長い努力があったからだ。山東町史によれば大正15年(1926年)に滋賀県守山市で天野川のゲンジボタルを守る運動が始まり、昭和3年(1928年)に県天然記念物に指定、天野川一帯の蜋を保護するようになった。昭和19年(1944年)文部省天然記念物に指定され、昭和27年(1952年)文部省特別天然記念物に指定された。この頃から、蜋保護と観光を目的とした「ホテル祭り」が催されるようになったという。しかし、昭和34年(1959年)に襲った伊勢湾台風のため、天野川は各所で氾濫し、蜋の巣は根こそぎ洗い流されてしまった。その後、天野川の護岸ブロック化が進み、蜋は絶滅。昭和39年(1964年)頃から全国的に蜋復活の機運が高まり、昭和42年(1967年)に源氏山斑入植物園で飼育、養殖した蜋幼虫の自然放流を企画。昭和44年(1969年)には蜋の飼育池が完成し、タネ蜋2,000頭による産卵孵化がテレビや新聞でも紹介された。昭和47年(1972年)「山東町蜋保護条例」が制定され、蜋も増え始め、昭和50年(1975年)に天野川下流梓川合流点で蜋の大発生が確認されるようになった。蜋の復活により、昭和59年(1984年)25年ぶりに蜋祭りが開催され、現在まで続いている。

成安造形大学映像クラスの卒業生に山東町在住の川瀬貴詠がいる。彼女は成安造形大学在学時に「天野川」という蜋のビデオ作品を制作した。この「天野川」は作者である少女と生涯をかけて蜋の保護に尽くした祖父への鎮魂歌が綴られているファンタジーで愛媛ビデオフェスティバルや東京ビデオフェスティバルでグランプリなどの受賞をして、様々なメディアから評価された。この作品の持つ世界は空想ではなく山東町の育まれた風土があるからだと理解した。

■ 2 山東町と柏原宿

ルッチプラザオープン式典で上映するための作品制作を私が担当することになり、2000年春から2001年冬にかけてことあるごとに山東町を訪れて撮影した。その中で私が印象深いのは山東町東部に位置する中山道の宿場町柏原宿である。JR柏原駅で下車し、駅前看板を見て少し歩くと、江戸時代の宿場町がタイムスリップしたかのようにそのまま残っている世界が出現する。今でも1200メートルほどの旧中山道に両サイド200軒ほどの家並みが並んでいて、そのほとんどが伝統的な木造建築だ。平成8年に実施した滋賀県教育委員会の調査によると年代別の建築物分類は次のようになる。江戸後期から明治初期のも

していた山東町史も彼らには疑問があったり、伊吹山を詠んだ和歌について郷土史家たちの論争となったり興味深いことであった。住民説明会のようなシナリオのやりとりは回を重ねることで人々と私は次第に親しくなり、撮影の協力をして貰い、完成となった。編集テスト版も教育委員会は試写のち即OKをだしたが、友の会の彼らからは出来上がりに感動しながらも、些細な絵のカットでだめだしが出た。その気の使い方ひとつ取り上げてわが町を愛している現れだと改めて感心した。

実現はしなかったが、彼らこそが主役の被写体として興味深い。柏原歴史館は施設ボランティア「ふれあい友の会」の協力によって展開している。ボランティアの会員は70名だという。住民の様々な役職を担当した長老たちが中心メンバーで開館以来友の会はいくつかの部会に別れて活動を続けている。資料展示・収集部会、史跡・館内案内部会、体験活動部会、装飾部会、情報部会がある。資料展示・収集部会は地域から発見された文書の解説と展示を行っている。史跡・館内案内部会は柏原宿を訪れた人への観光案内を担当している。体験活動部会は地域に残る技術を生かした装飾品づくりの体験を行っている。日常的に館内の清掃や庭の除草、和室内の生け花を行っているのが装飾部会で、見えないところに心を配ることをめざしている。情報部会は全体の部会の活動を調整したり、通りに道しるべや元どんな仕事だったか看板を立てたり、広報誌を発行している。彼らの活動をきちんとフォローできなかったが、一部紅葉ウォークラリーでのガイド風景や館内「喫茶柏」でのやいとうどん風景を採用することにした。

■4 DVD企画のコンセプト

この映像は館内上映の一方的な提示だが、何度見ても興味深いものにしたい。小学生から高齢者まで初めてこの地を訪れた来訪者を対象とする。また住民にも興味を持つ内容としたい。こうした垂れ流し映像での課題は多い。ひとつは情報を何も持っていない受け身の来館者にどう好奇心を持ってもらえるかである。飽きないで見て貰えるには一般的には8分が限界だと聞く。でもこの作品は様々な情報が交差するので、20分くらいは必要になってしまう。そこを押さえて15分くらいにすることにする。(実際には16分になってしまった)

- 1 柏原の位置、地形の紹介。
- 2 街道とは何か。中山道の必要性の理解。
- 3 柏原宿の歴史と位置。
- 4 宿場町とは何か。
- 5 柏原宿の規模とどんな建物があつたのか。
- 6 伊吹もぐさについて。
- 7 亀屋左京商店
六代目七兵衛のエピソードについて。
- 8 古い家並みと新築の家との比較。
- 9 柏原宿歴史資料館の建物はいつ建てられたのか。
- 10 資料館にはどんな収蔵品があるのか。
- 11 皇女和宮は柏原宿に宿泊したのか。
- 12 「やいと祭り」の紹介。
- 13 柏原宿周辺の紹介。(散策気分で)
寝物語の里、成菩提院、清滝寺徳源院
- 14 昔からの行事

清滝山の大松明、大野木の太鼓踊り。

- 15 北畠具行卿の墓。
- 16 路地裏散策。
- 17 この町出身の映画監督吉村公三郎の紹介。
- 18 積雪の柏原宿風景。
- 19 満開の道誉桜。
- 20 人々の生活と笑顔。

伝えたい情報が多いので、幕の内弁当スタイルになるが、知識の基礎情報と観客がアクティブに参加してみたいものを交叉させてみた。なるべく分かりやすくするためにイラストや2Gアニメを多用することとした。制作は撮影では本学非常勤の三村道治先生、音楽では本学非常勤の加藤雅春先生、イラストでは友人の佐藤均氏、ナレーションでは小林慶子氏に参加してもらった。完成後、放映は日常的に行われているようである。教育委員会の話では大半の来館者がじっくり見て下さり、反響は大きいとのこと。機会があれば調査をして評価を数量化してみたい。

■ 柏原宿今昔物語 シナリオ

プロローグ

シーン 1 (FI) 竜アニメ

タイトル 柏原宿今昔物語

シーン 2 地図アニメ

山東町柏原位置 CGイラストマップ

N「柏原は山東町の南東部に位置し、東は岐阜県関ヶ原町と接しており、北に秀峰伊吹山を望み、南は鈴鹿山系に囲まれた盆地にあります」

シーン 3 山頂からの風景

シーン 4 葉広の里

CGイラスト 柏の葉 町の風景との合成

N「人々はこの地を「葉広の里」と呼んでいます。地名の語源である柏の木の葉は今でも柏餅に使われているように、大きく広いのではびろといわれました」

シーン 5 旧街道 アニメ

N「柏原宿は中山道の宿場町として、京文化と東文化がふれあう接点の町といえます」

シーン 6 並木

N「今も残るもみじと松並木の旧街道が往時を偲ばせます」

シーン 7 中山道の歴史 関ヶ原の戦い

徳川家康 日本地図主要5街道略図

N「関ヶ原の戦いで豊臣勢に勝利した徳川家康は、東海道や、中山道などの主要5街道の整備を始めました」

シーン 8 御茶屋御殿

N「三代将軍家光は柏原宿に將軍上洛途上の休泊所として、御茶屋御殿をつくりました」

シーン 9 松並木

シーン 10 一里塚 イラスト

N「一里塚はおおよそ4キロメートルごとに作られ、旅人が目的地に向かう目標として、また馬や籠の代金を支払う時の目安にもされました。柏原宿の一里塚は愛宕山の山裾にありました」

シーン 11 旅人と宿場 イラストアニメ

シーン 12 柏原宿の位置 資料地図

N「中山道には江戸を基点に東海道の草津まで69の宿場が置かれました。柏原宿はその60番目の宿場にあたります」

シーン 13 イラスト 柳沢藩主

N「柏原宿は古くは江戸時代の前半は天領で、徳川時代中頃、享保9年に大和郡山藩領となっています」

シーン14 柏原宿現在の風景

N「江戸時代には現在の柏原郵便局あたりや御茶屋御殿跡あたりに旅籠や煮売り屋などの店がひしめいていました」

シーン15 天保の記録 模型

N「江戸末期の天保14年(1843)に行った幕府の調査記録を見ますと、柏原宿は東西に13町(約1.4キロメートル)で、戸数は344軒、人口1468人、2441石とこのあたりでは大きな宿場町でした」

シーン16 柏原宿の模型 模型 地図 イラスト

N「本陣、脇本陣が各1軒、荷物引継の大役を果たした問屋は6軒もあり、荷蔵も東西に1棟ずつ立っていました。武士や一般庶民が宿泊する旅籠が22軒もあり、造り酒屋4軒、もぐさ屋は9軒、そのほかに魚屋、荒物屋、髪結所、煮売り家、ローソク屋、木綿屋などたいへん繁盛した街道筋でした。また寺院は18ヶ寺もありました」

シーン17 伊吹もぐさ もぐさ 伊吹山 ヨモギ

N「柏原宿の街道名物と知られたものに伊吹もぐさがあります。お灸をすえて疲れや病を治す療法として、もぐさは昔の旅の必需品でもあり、土産物として大変重宝がられました。近くの伊吹山には昔からもぐさのもとになる良質のヨモギが自生しておりました」

シーン18 現在の亀屋左京商店 店頭 広重浮世絵 福助

N「柏原宿では多いときには十軒ものもぐさの店がありましたが、現在では亀屋左京商店一軒だけになりました。今も昔ながらの製法で創業350年近くを誇っています。現在の建物は文化 12年頃(1815)のもので、現在も往時とかわらない光景がみられます。亀屋の大きな福助さんが飾られた店頭の佇まいを〈木曾街道六十九次〉の中に広重が描いています」

シーン19 CMソング 七兵衛イラスト 江戸遊女浮世絵

N「アイデアに長けていたのが六代目、七兵衛で、江戸吉原で、『江州柏原伊吹山のふもと亀屋左京のきりもぐさ』とCMソング第一号ともいべき歌を作り、芸者衆に歌わせたところ、その歌が江戸中で流行し、もぐさは飛ぶように売れたといわれています」

シーン20 やいと祭りでの落語 CMの歌

シーン21 亀屋庭園 広重浮世絵 庭園

N「浮世絵の左奥に描かれている庭園は、六代目七兵衛がつくった近江八景を取り入れた回遊式の庭園です。通りすがりの旅人は庭に魅せられ、茶店で休息し、名物のもぐさを買ったといえます。また大名、公家、文人たちは離れ座敷の蔵六亭から庭園を眺め、旅情を慰めました」

シーン22 現在の柏原宿 古い建物 グラフ

N「宿場町柏原は 今も歴史の名残をとどめ留める家並みが続き、遠い記憶の懐かしい世界が生きています」

シーン23 新しい建築 つくり酒屋

N「新しく建築されている民家の建物も町並みの統一を考えて、自主的に在来工法でつくられているところに住民の誇りを感じます」

シーン24 柏原宿歴史館 歴史館外観

N「こうした、柏原宿の魅力を伝える場として平成10年に山東町立「柏原宿歴史館」が開館しています。大正6年頃に建てられた重厚な書院造りの旧松浦久一郎邸の趣を残して改築したものです」

シーン25 資料館 資料館内部

N「当柏原宿歴史館は江戸時代の宿場史料や旅人のみ

の廻り品を常設展示して、宿場の仕組みや柏原宿の特徴を学んでいただけるようになっています」

シーン26 資料紹介

旅の持ち物：往来手形、印籠、薬入、小道具、道中小鏡、大財布、小財布、煙草入れ、キセル、矢立、秤(はかり)、磁石、柳行李、貨幣、道中記、早道、火打ち道具

シーン27 萬留帳など展示資料 萬留帳

N「当柏原宿歴史館が誇りとしている三大史料「萬留帳」、「御茶屋御殿の藝股」「正徳年号の大高札」が展示してあります。「萬留帳」は、万治3年(1660)から昭和30年(1955)まで295年間の、柏原宿での出来事を記録したものです。これらは、江戸時代の宿場の事情を調べる上ではとても貴重な記録と言えます」

シーン29 皇女和宮 柏原本陣宿泊関連文書

N「皇女和宮は文久元年(1861)、14代將軍徳川家茂と婚儀のため、江戸へ向かう途中、柏原宿に宿泊しました。その当時の資料を見ると、宿泊した人数は何と4144人、使った米1500俵。そのための準備や当日の装備は相当大がかりなものでした」

シーン30 ふれあい友の会の活動

シーン31 喫茶コーナー

N「歴史館には、地域の有志者たちの共同出資による喫茶「柏」があります。その中で、評判なのは「やいとうどん」やいと(灸)のもぐさに見立てた「もずく」に「紅生姜」の赤い火がとまります」

シーン32 やいと祭り

N「暑い夏が訪れました。7月下旬には、いつもは物静かな旧街道も大勢の人で溢れ、「やいと」祭りがにぎやかに行なわれます。平成になってからまちおこしとして住民たちの提案で新しく始まったものです。柏原宿を再発見してもらい、現代人に活力を取り戻そうとするのがねらいです」

シーン33 柏原宿周辺 山頂からの風景

シーン34 寝物語の里1 風景

N「岐阜県との県境に接しているのは長久寺の集落。この集落のはずれが「寝物語の里」です。幅50cmばかりの細い溝川を隔てて近江の国と美濃の国が接するところです」

シーン35 寝物語の里2 アニメ 広重浮世絵

N「その昔、この溝をはさんで近江側に 亀屋、美濃側に両国屋という旅籠がありました。中山道を行き来する旅人たちが、それぞれの宿屋に泊まりながら、壁ごとに隣の国の宿屋の人と話し合えたというのが寝物語りのいわれとされています。広重が描いた「木曾街道69次」にある「今須宿の図」はこの地を描いたものです」

シーン36 楓並木

N「長久寺と柏原を結ぶ中山道沿いには楓並木が残っています。晩秋には真っ赤に染め上がり、美しい紅葉が出現します」

シーン37 成菩提院

N「大きな山門をくぐると、石組みの道があり、上っていくと、成菩提院の本堂があります。成菩提院は寂照山円乗寺(じゃくしょうざんえんじょうじ)と号し、弘仁6年(815)に最澄が開基した天台宗の中本山です。また談議所とも呼ばれた僧侶研修の学問寺です。記録によると、戦国の武將織田信長・豊臣秀吉・小早川秀秋などの武將が宿営しています。関ヶ原の戦いの後、天海が住職になり、全盛期には近江と美濃にまたがり、60以上の末寺がありました。そのひとつに西国33番札所の谷汲山・華嚴寺があります」

シーン38 成菩提院 絹本著色聖徳太子像

N「秘蔵されている宝物には仏画が鎌倉後期の重要文化財『絹本着色浄土曼陀羅図』や室町初期の重要文化財『絹本着色聖徳太子像』など県指定の重要文化財が多くあります」

シーン39 山門の竜 アニメ

N「また、成菩提院の山門の竜の彫り物はあまりにも出来がよかったために、本物の竜となって村里にあらわれ、大洪水を起こしたとの民話があります。竜を止めるために、その目には大きな釘が打ち込まれているということです」

シーン40 紅葉ウオーク

N「晩秋になると、清滝山は紅葉し、清滝寺徳源院の参道にはその彩りの輝きに魅せられて大勢の人がやってきます」

シーン41 徳源院

N「清滝山の裾野にある清滝寺徳源院は、鎌倉中期に近江に勢力を持っていた近江源氏佐々木氏の別家、京極家の菩提寺です。江戸時代京極氏22世高豊が三重の塔を建立し、墓所を整備しました。閑静なたたずまいの境内には本堂、位牌殿、三重塔などがあります」

シーン42 三重塔

シーン43 宝篋印塔

N「境内裏手の山裾には京極氏信を始めとする当主などの墓34基の宝篋印塔が並んでいます。それらの中に婆沙羅大名といわれた佐々木道誉、高次、高豊の墓があります。高次は浅井長政・お市の方の三人姉妹の次女お初を妻にしました。これらの墓は昭和7年に一部が、平成に入り全域が国の史跡指定を受けています」

シーン44 大松明の行事

N「清滝山は昔から大松明の行事が伝わっています」

シーン45 大野木の太鼓祭り

N「昔は雨ごいや返礼踊りと呼ばれていましたが、今では豊年満作を祝う伝統芸能として、大野木の太鼓踊りがあります。10月初旬に八相宮の祭礼に奉納されます」

シーン46 北畠具行卿の墓 墓 イラスト

N「猫居峠に一基の宝篋印塔があります。実はこれが南朝の忠臣北畠具行卿の墓です。具行卿は後醍醐天皇の側近で、元弘の変(1331年)のときに、討幕の計画に加わっていたことから幕府に捕らえられました。具行卿の護送人であった佐々木道誉は自分の館がある清滝寺に留まり、鎌倉幕府に助命嘆願をしましたが、聞き入れられず、元弘2年(1332年)具行卿はこの地で斬首されました」

シーン48 吉村公三郎の実家

吉村氏写真 作品写真

N「この家は映画監督の吉村公三郎が少年時代を過ごした家です。監督は『暖流』で一躍注目され、『夜明け前』『足摺岬』『源氏物語』『越前竹人形』などの作品を残しました。また山本富士子、京マチ子ら日本を代表する女優を育てたことでも知られています」

シーン49 雪の風景 雪で覆われた町並み

N「冬の季節になると、伊吹山は雪化粧します。2月、柏原の町も真っ白に覆われます」

シーン50 春の風景 桜 楽しい宴

N「爽やかな風に包まれた春の柏原、清滝寺徳源院では道誉桜と呼ばれるしだれ桜が趣をそえてくれます。大勢の人たちがお花見にやってきました」

シーン51 人々の表情

N「グローバルな都市の考え方が重要だとされる現代では、残念なことにふるさは次第に衰弱し、消えつつあります。しかしここ柏原宿では、豊かな自然と歴

史に育まれて、受け継がれてきた文化を町の人たちが自らしっかり守り伝えようとしています」

シーン51 満開の桜と伊吹山

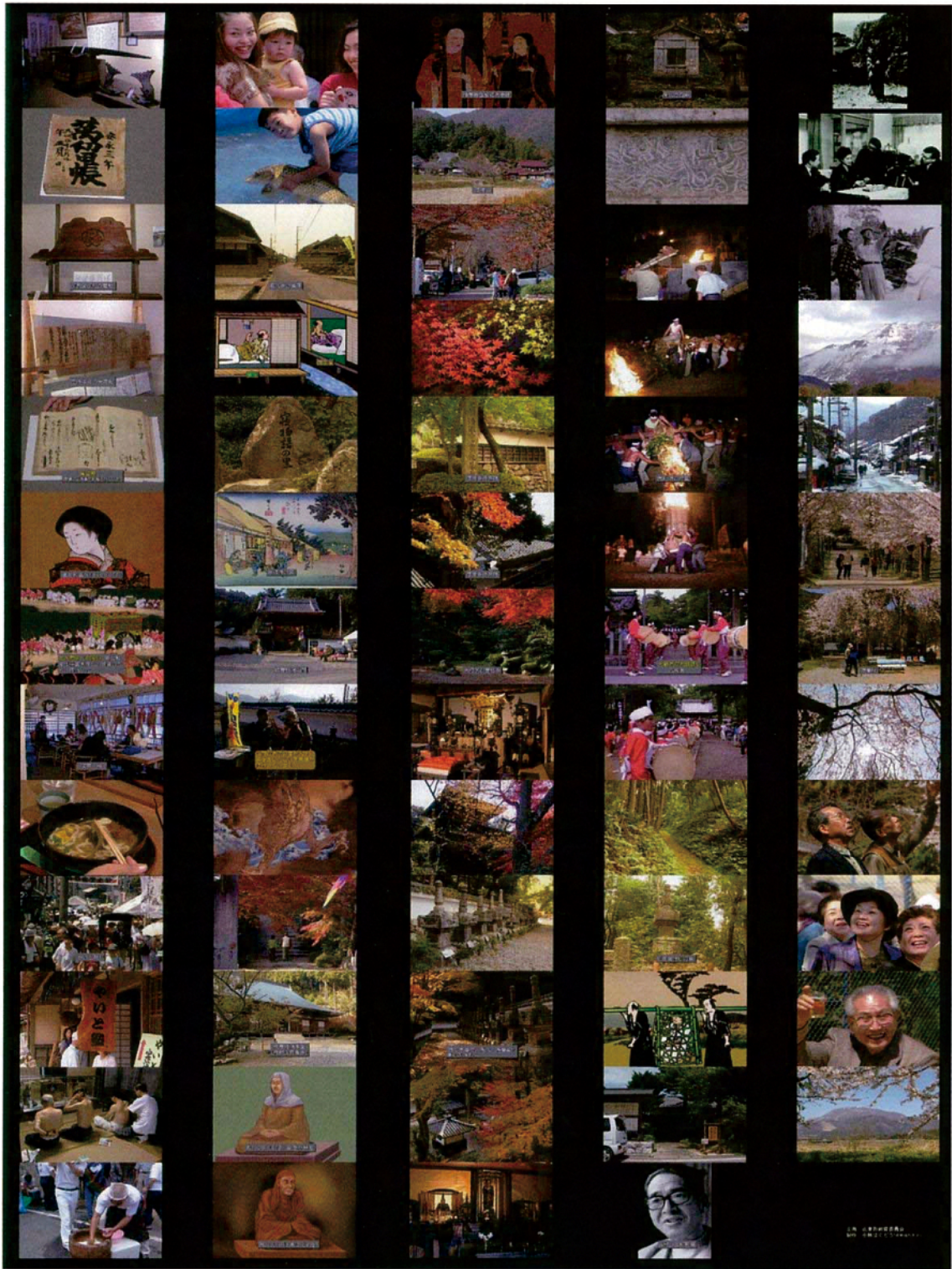
エピソード

データ

「柏原宿今昔物語」(DVD 時間:16分)

監督:小林はくどう

収蔵:山東町立柏原宿歴史館 2002年4月



滋賀の現代作家展

岡田修二

絵画—見ることへの問い

Contemporary Art in Shiga vol.2: Shuji Okada,
Retrospective. Painting— A Pursuit of Our Sight

造形美術科助教授（洋画）

岡田修二 OKADA Shuji

滋賀県立近代美術館が2002年にスタートさせた「滋賀の現代作家展」は、滋賀ゆかりの現存作家の創作にスポットをあて、作家と作品の全貌を全国に向けて発信する年1回の独自企画によるシリーズ展である。私は第2回目の作家として選出され、「絵画—見ることへの問い」と題された初めての本格的な回顧展を催すこととなった。作品は、近年の大型絵画作品を中心に、初期作品から初公開の新作まで32点で構成された。

顕微鏡写真を使用したレリーフ状の実験的な作品から本格的な活動を開始した私は、顕微鏡から得られた微生物のイメージと、文字や記号のダブル・イメージによるパネル構成作品《ノートリアスの日記》、《遅延・束縛・停止》シリーズに移行し、1996年頃か

らは画面一杯に拡大された人の顔や手のイメージに、顕微鏡写真の画像を重ねた《Take》シリーズに至った。モノトーンで克明に描かれたこのシリーズにおいては、日常の視覚世界と極小の視覚世界をオーバーラップさせることで、絵画を廻る視覚の問題を提示している。さらに近年では琵琶湖湖畔の植物風景を描いた《水辺》シリーズを展開しており、単なるリアリズムを超えて、写實的でありながら高い抽象性や現在性を獲得しうる表現を模索している。

これまでのシリーズを一同に展示したこの回顧展は、私にとって極めて重要なステップとなることだろう。それは見るという行為を私自身の生の営みと重ねあわせた探究の軌跡であり、また、絵画芸術としての自立をめざした試みの軌跡でもある。



《水辺 18》 Waterscape 18
2002年 油彩・キャンヴァス Oil on canvas 230×461cm